

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101827		
法人名	社会福祉法人 光塩会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	前橋市上増田町1番地		
自己評価作成日	平成27年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/kenri/10/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2
訪問調査日	平成27年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活に張りを持っていただけるように、掃除、食事の準備、片付け、ゴミ捨て等役割を持ち、今までの生活の延長をしながら、楽しく過ごしていただけるよう支援しています。また、入居者様の趣味を取り入れたり楽しめる活動を見つけながら、その人らしく安心して過ごしていただき、その方の意見を尊重しながら、余暇活動、雑巾縫い、リハビリ体操、書道など、色々な楽しめる活動に参加していただいております。天気の良い日には季節を感じられるよう、また、楽しみながら筋力低下の防止、生活リズムを保てるよう散歩に出たり、地域行事に参加し、地域の方々との交流を楽しみに生活していただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月地域のボランティア訪問が行われ、季節行事の飾り付けや歌を唱っている。また、地域公民館で開催される行事(文化祭・敬老会・新年会等)への利用者参加が恒例になっている等、地域との交流が自然な形で図られており、地域の一員としての行為そのものであり、地域密着型サービス本来のあるべき姿が実践されている。献立は利用者の希望を取り入れて作成し、食材を利用者と一緒に買いに行き、個別の日用品等も購入できる機会としている。ホール内から畑が望め、作物(大根・ほうれん草・ねぎ等)の成長が確認でき、食卓に上がり話題としながら楽しみ事へと繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく、楽しく安心して暮らせるよう、関係性の維持、地域生活の継続を理念に入れケアしている。	職員と相談の上作成し、事務所内や台所等に掲示して日々確認し合っている。新入職員には採用時に説明し、悩んだ時は理念に振り返るよう伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、文化祭、菊花展、敬老会、新年会等に参加したり、散歩の時などに会った方々とは挨拶を交わし、顔なじみの関係が作れるよう努力している。	地域の公民館で開催される行事(文化祭・敬老会・新年会等)への利用者参加は恒例となっている。毎月地域のボランティア(歌・行事の飾り付け)の訪問等で交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加させていただき、グループホームのことや、認知症について相談を受けたり、お話をさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に参加メンバーからの意見、要望をうけ、サービスの向上に努めている。また、地域の情報を得て余暇活動などに取り入れている。	年6回開催されている。市担当者・自治会長・民生委員・利用者・職員等が参加し、状況報告や活動報告等で意見交換が行われているが家族の参加がみられなかった。	運営推進会議の場が有効活用されるためにも家族が参加出来るような工夫をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険申請の代行を行ったり、分からない点の確認など、電話や直接行って話をきくようにし協力関係が築けるよう取り組んでいる。	日頃から判らない事の相談や確認等、市担当窓口との連携が図られている。介護保険の申請代行等で出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容を確認し、拘束の無いケアを目指している、職員数の少ない夕方から朝にかけては玄関のカギを閉めている。	法人内の研修会に参加し、資料の確認や伝達研修等行なっている。スピーチロック等についても注意し拘束の無いケアを心掛けている。玄関は日中施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し虐待防止法の理解を深め、また、職員同士であっても見過ごすことの無いよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援制度や、後見制度などの理解を深め、それに該当するような質問をうけたときは、制度についてお話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明や、ケアに関する考え方を説明し、理解、納得を得るようにしている。また、随時質問を受ける旨もその際説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話だけでなく、利用者も運営推進会議のメンバーに入っており、そこでも意見を抽出している、また、意見箱と用紙を玄関に置くだけでなく、郵送して意見を募っている。	面会時にはお茶を提供する等でコミュニケーションを図り、意見を聞くように心掛けている。また、年4回(ご意見記入用紙)を送付したり、電話等で確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見要望を聞くよう心掛けている。また、月1回の法人代表者会議に主任が出席し職員の意見、要望を伝えている。	日頃から職員同士で意見を出し合っており、毎月開催の法人内会議で出された意見等、伝えている。勤務表作成時には希望休等取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来て職員の勤務状態を把握し、向上心を持って働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場に来て職員一人ひとりの力量を把握し、その職員にあった研修に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連協の研修に参加したり、相互連携を取り合うことにより、サービスが向上するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状態や思いを良く聴き、受容、共感に努め、また、入居前に本人に施設見学を勧め、菜の花の雰囲気を感じて頂き、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることや不安、今までのサービス状況などを良く聴き信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の要望や状況を確認し、出来る限り要望に応えられるよう努め、場合によっては他のサービスに繋げ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの得意分野や家事活動、日常の会話の中で利用者さんに教えて頂く場面作りや、声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に利用者さんの様子や職員の意見を伝え、ご家族に協力を得ながら一緒に支えていくための関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が訪問時等、継続的な交流が出来るよう働きかけ良い関係が保てるよう努めている。また、関連施設に訪問し、退去された方とも交流を維持している。	以前から行き付けの美容院へ家族と出かけている。友人・家族等の訪問がある。家族とお墓参りや化粧品の購入等で出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせる時間や、役割活動を通じて良い関係が保てるよう、職員も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された方のところに、利用者さんと一緒に面会に行ったり、ご家族からの相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常ケアの中で希望を伺ったり、言動や表情などから意向を把握するよう努めている。	利用者は日常の会話や表情から意向等を把握し、会話の無い人は発せられた言葉から汲み取っている。家族からは面会時や電話等で確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族から生活歴や暮らし方等を聞き取り、入居後も日々の関わりの中で話を傾聴しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方、生活リズムを理解し、日々の暮らしの中で、出来る事分かることを見つけ、その人の全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から、日々のかかわりの中で意見を聞き反映させている。また、日常ケアの中での気づき、意見を職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。	月1回のモニタリング及び担当者会議を基に3ヵ月毎の見直しが行われている。担当職員が介護計画の素案を作り、計画作成担当者との確認の上作成している。状態変化の際には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子、気づき、状態変化等を個別の介護記録に記入、それを元に職員間で情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や買い物等、必要な場合は柔軟に対応し、ここの満足度を高められるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会長、民生委員に参加していただき、意見交換をする機会を作っている。また、散歩や地域行事に積極的に参加することにより、地域資源を開拓している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を第一とし、かかりつけ医の継続支援、又は、事業所の協力医を選んでいただいている。	入居時に説明して確認を行っているがほぼ全員が協力医となっている。関連施設の往診に併せて月3回の受診支援を行っている。訪問歯科は必要時に受診できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面での疑問や、不安を感じた時は協力病院の看護師や関連施設の看護師に協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、相談員、ご家族と情報交換を密に行い、入院中の状態把握や、退院後の準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合について入居前に説明し、状態の変化があるごとに本人、家族の意向を確認し支援に繋げている。また、医師、看護師等と連絡を取り、事業所の出来る事出来ないことを話し合いながら取り組んでいる。	重要事項説明書に記載があり、見学の時点で説明している。看取りは行わない方向だが、法人内の関連施設を紹介する等、状態に応じて家族や関係者と確認し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えマニュアルを作成し、常に職員間で確認し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの避難訓練を年2回行い、それ以外にも独自訓練を行っている。また、地域の方にも地域協力員として、非常時は強力をお願いしている。	消防署立会の下、H26年3月20日避難訓練・H26年11月6日夜間想定総合訓練を実施。年4回の避難誘導とDVD観賞等自主訓練を実施。非常食として水・缶詰・缶パン等3日分程準備している。	非常時に備えて、実際に避難行動を起こす事で、課題分析に繋がることを踏まえ、自主訓練の増加を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりや、ミーティングの中で利用者様のプライバシーや誇りを傷つけないよう、職員同士でお互いが注意しあって、対応を行っている。	事前のアセスメントから、呼称等についても確認を行い、尊厳を持つての対応に心掛けている。気づいた際には職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションを重視しながら、毎日の楽しみ活動でやりたいことを決める場面を作ったり、運営推進会議で希望を聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や希望に配慮し、入居者のペースに合わせてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて化粧をしたり、訪問理髪店が来援した際は希望に応じて利用している。また、家族と一緒に馴染みの美容室へ行く方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に買い物に行ったり、メニュー決めの参加や出来る方には準備や後かたづけを行っていただき、食事が楽しみの場になれるよう支援している。	調理担当者が利用者の希望を取り入れ3日毎に献立を作成している。食材を利用者と買いに出かけたり、菜園(大根・ほうれん草等)の作物が食卓に上がる。飲物はコーヒー・紅茶・緑茶・ココア等提供している。職員は検食として1人が食べている。	職員と一緒に同じ物を食べる事の意義の再確認及び多種準備されている飲物を選択できる場面づくりの工夫をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好に考慮しながら提供を行い、水分や食事の摂取量を記録に残し、水分不足や食事量の低下時は早めの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の殺菌洗浄を行い、清潔が保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、排泄のリズムやサインをつかみ、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、時間での声掛けや動作等からトイレ誘導を行っている。誘導時にはさりげない声掛けでトイレでの排泄を心掛けている。失禁時にはトイレや居室等で更衣している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて、乳製品や繊維質の多い食材を取り入れている。また、体操や家事活動、散歩等適度な運動をする機会を作り、自然排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回の入浴の他に、希望者や排泄失敗で汚れてしまった方には入浴していただいている。また、入浴剤やゆず湯にして入浴を楽しめるようにしている。	毎日準備し、1日に3人が基本だが、全員に声を掛け希望に応じて支援している。状況に応じて同性介助も可能であり、多種の入浴剤使用等楽しみへと繋げている。拒否の際は声掛けや日にちを変える等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中は運動等の活動を促し、夜間眠れるように配慮している。眠れない利用者さんには無理に居室誘導するのではなく、お茶を勧めたり一緒にお話するなどしてから入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容説明で内容を把握し、服薬時は名前を確認しながら手渡したり、お盆の上に置くなど、誤薬が無いよう飲み込むまで注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、ゴミ捨て、食事の片付け、おやつ作り、畑作業等、入居者の力を発揮できるような場面を作ったり、買い物、歌、外出、書道など楽しみ事が見つかり気晴らしが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望に応じて、散歩や買い物、外食、慰問の見学などの支援を行ったり、家族に協力していただき、馴染みの場所にも外出できるよう支援している。	天候に応じて散歩や庭でのお茶飲み等、日常的に外気に触れる支援している。季節のお花見・りんご狩りや外食等、出かけている。職員と食材の買い物や日用品の購入等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人の現金所持はないが、個人の物品買い物時は職員付添いの元、お金を手渡し、支払ってもらっている。利用者より現金所持の希望ある場合は、家族に伝え少額のみ所持していただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話対応や、年賀状など今までの繋がりを大切に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵、観葉植物、花を飾ったり、正月飾りお雛様などの季節の飾り付けを行い。家庭的な雰囲気作りをしている。	テーブルが2か所とテレビの前にソファが2つ設置されている。季節の花が生けてあったり、まゆ玉飾り等、季節感のある雰囲気となっている。ホールから畑が望め、野菜の成長を楽しむ事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にダイニングテーブルやソファを置いたり、庭にベンチを置き、気の合った者同士で思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や、好みの物、写真等をお持ちいただき、安心して生活心地よく生活できるようご家族と協力しながら工夫している。	個々に馴染みの物と思われる筆筒・仏壇・テーブルセット・家族の写真・テレビ等が持ち込まれており、心地良く過ごせる居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、分かることを日々の生活の中で見極め、必要に応じて危険なものは配置換えや、見えないところへ移動している。		